

## バルサルタンによる薬剤誘発性落葉状天疱瘡の1例

おお 大 藤 聡<sup>1)</sup> まつ の よし お  
もり 森 脇 義 ひろ 弘<sup>3)</sup>

キーワード：バルサルタン，薬剤誘発性水疱症，薬剤誘発性落葉状天疱瘡

## 要 旨

症例 94歳，男性。バルサルタンをおよそ7ヵ月内服後，体幹と四肢にかゆみをともなう紅斑が出現。紅斑は融合拡大しその内部に混濁した小水疱が出現した。組織検査で角層直下から表皮上層に水疱があり水疱内部に好酸球の浸潤があった。表皮浅層で棘融解を呈していた。バルサルタンで薬剤添加リンパ球幼若化試験 (drug-induced lymphocyte stimulation test: DLST) 陽性。バルサルタン中止で皮疹は軽快した。デスモグレン1抗体は陰性。免疫組織化学染色で表皮細胞間に抗ヒト IgG 抗体陽性所見があった。経過と検査所見からバルサルタンによる薬剤誘発性落葉状天疱瘡と診断した。

## はじめに

薬疹の病型の中で比較的まれなものに水疱型薬疹がある。これは薬疹全体の0.5%をしめる比較的まれな病型である<sup>1)</sup>。その中には通常の水疱症の診断基準を満足してしまうものが含まれる<sup>2)</sup>。SH 製剤による天疱瘡様病変が注目されているがSH 基をもたないバルサルタンによって誘発された天疱瘡の報告もある<sup>3)</sup>。このたびかゆみをともなう紅斑と水疱の形で発症したバルサルタンによる薬剤誘発性落葉状天疱瘡を経験したので報告する。

## 症 例

患者：94歳，男性，身長 157 cm，体重 43 kg  
初診：201X年 7月12日  
主訴：四肢 体幹のかゆみをともなう発疹  
既往症：高血圧症，めまい症  
内服歴：10年以上前から高血圧症の治療を受けている。降圧剤は201X-1年11月22日からアムロジピンベシル酸塩からバルサルタン・アムロジピンベシル酸塩配合剤へと変更になった。  
家族歴：特記すべきことなし。  
現病歴：高血圧症で近医に通院中であった。201X年 6月よりかゆみを伴う発疹があり。クロタミトン・ヒドロコルチゾン外用治療を受けたが症状増悪したので当院を紹介され受診した。当院

Satoshi OFUJI et al.

1) 雲南市立病院 皮膚科 2) 同 内科 3) 同 外科  
連絡先：〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1  
雲南市立病院皮膚科